

生徒には無限の可能性がある
自分の可能性を広げ、挑戦してほしい

海野…生徒たちが自分に合う大学や学部学科を選ぶことができるのか、生徒が夢への第一歩を踏み出すことができるのかどうかが進路指導においては一番大事なことです。本校は中高一貫校であるため、生徒たちは高校入試がなく、「選ぶ」という体験をしないままに育ってきています。進路を選択するということは、何かを切り捨てていくということでもあります。生徒たちにとっては初めての「戻れない選択」ということが言えます。女子生徒は進路選択でご家族のアドバースを参考にすることも多いですが、それだけで決めてしまうと、本人が大学に進んでから本当にやっていけないのかわかりません。生徒たちが自分の将来を考え選びとっていく中で、「自分のやりたいことはここにある」と思えるものを見つけた時に、生徒の気持ちを保護者に理解してもらえるようにサポートすることが教員に求められていると考えています。

鈴木…高校1年生は、まだ自分のやりたいことを探している段階なので、保護者に自分の進路についての思いを伝えるというところまではいけません。ご家族からのアドバイスも大切にしながら、「これまで出会っていないものの中にも自分に合う選択肢がある」ということを伝える

ることから始めています。どうしたいのか、何がしたいのかを考え始めるわけですが、その際にいかに視野を広げて考えさせることができるかが重要だと考えていました。

進路について考える際、あれもできないこれもしないと思いがちなイメージを持つ生徒は多いと思います。夢ナビプログラムでは、自分が普段から興味・関心のあることをきっかけに自分が将来大学で学ぶ学問についての新たな可能性を広げていけることは有効でした。自分の投げかけた関心ワードに対して、たくさんの講義シートが戻ってくるのがうれしかったようで、生徒同士が戻ってきた講義シートをお互いにオープンに見せあっていました。生徒同士が、自分は大学でこんなことがしたいんだと、口に出して話ができる、その上で切磋琢磨できる環境をこれからも大切にしていきたいと考えています。

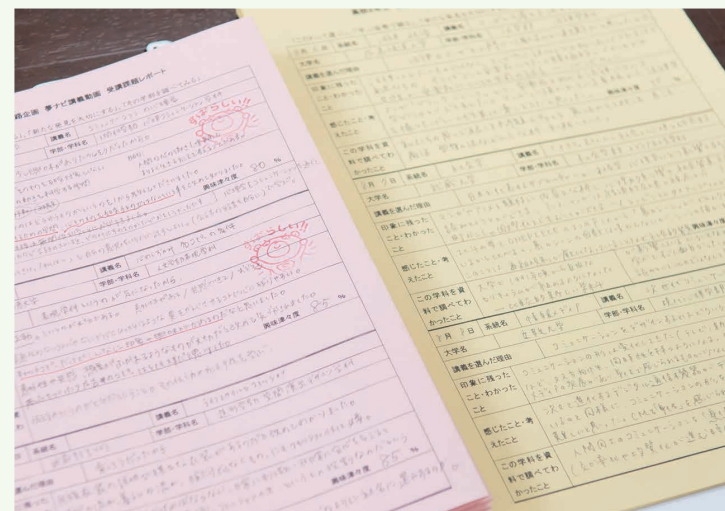
自分と向き合うことができる
工夫に溢れた
オリジナルの受講課題レポート

吉村…講義動画の取り組みを始めた理由は、今の生徒がやりたいことは、相關領域が多いので、講義動画を見て違う学部でも同じような研究がされているということに気づいてほしかったためです。学部学科についてまだぼんやりとし

ている生徒には、講義動画の取り組みの中で自分が本当は何が好きなのか、その学問分野は具体的にどんなことが学べるのかを確認するということが目的でした。

鈴木…私が担任している1年生のクラスでは、どれを見てもいいか見当がつかないという生徒がいたので、クラス全員で、講義動画の「一覧」からの講義が面白そうかを挙げていくことにしました。講義のタイトルを読んでみるだけでもとても興味が高まり、「理想の結婚相手って？ 優先順位は何だ？」とか、「スポーツ選手に求められる管理栄養士って？」など、思い思いに候補を挙げていました。みんな「進路の良い選択ができたらいいよね」と確認し合えた時間にもなりました。

吉村…たくさんの講義動画の中から自分がどういうセレクトをするかで、生徒自身も知らなかった好み・志向に気づいてもらいたいという願いもありました。そこで、受講課題報告のレポート用紙を作成し、その分野への思いや本気度を見るために「興味津々度」という欄を設けました。それは、ただ



▲さまざまな「仕掛け」が盛り込まれた「受講課題レポート」。
びっしりと書き込まれていて、充実度がうかがえる。

生き生きと輝ける場所を見つけるために 真の生きる力をもった女性を育てたい

静岡県私立静岡雙葉高等学校



夢ナビライブ講義動画サービスが
高等学校の進路指導で
活用されています。

動画で進化する 学問との出会いの形

夢ナビライブで実施されている大学教授の講義ライブをできるだけ多くの生徒に見てもらいたいという思いから、「夢ナビライブ講義動画サービス」をスタートさせました。本サービスで視聴できる講義動画は約1800本に上り、同じ学問分野の中にも複数の内容の動画がラインアップされています。各講義動画は大学教授が精魂を注いで30分間に凝縮された学問のプロモーションとなっているため、高校生にわかりやすく学問の魅力を伝えます。

高校で出張講義を実際に体験受講したあとに、それに関連する講義動画を見る、あるいは出張講義には選択肢が少なかったため自分の興味のある分野がなかった生徒が、その多様な個性に合わせて講義動画を選び視聴することができます。その活用方法は各高校の進路指導の方針やタイミングに合わせて活用いただけるものにしていきたいと考えています。

静岡雙葉高校では、2年前から、文理選択や学部学科探究活動を目的として夢ナビ講義動画の視聴を進路指導に取り入れています。「1年生の冬休み」「2年生になる春休み」「2年生の夏休み」の3回、夢ナビ講義動画3本以上を視聴して、レポートを提出する取り組みです。

生徒一人ひとりの進路の選択の段階や考え方が見えることから、そのレポートは進路面談のツールとしても活用されています。また、視聴する講義動画を選んだり、それをレポートにまとめたりして、生徒自身が自分の本当にやりたいこと、めざしたい方向性を明確にしていることに役立ち、生徒の「自立」にもつながっています。



繰り返し視聴することで
自己理解が深まり、
やりたいことが見えてくる

小山…私は2年生を担当しているので、生徒たちは1年の冬休み、2年になる春休み、夏休みに動画視聴の課題に取り組んできました。一番視聴数の少ない生徒でも9本の講義動画を見ています。生徒の動画の見方としては、30分の本編を見る前に、1分位のダイジェストを見て、自分の思っているものとは違うなと思ったら、次の動画次の動画へと、どんどん切り替えていきます。そして、最終的に30分の本編を見たものだけが記録されて提出されますから、生徒たちは実際にはもっとたくさん見て、選択をしているのです。

吉村…「受講課題レポート」には、「印象に残ったこと・わかったこと」「感じたこと・考えたこと」を書き込む欄に加えて、「この学科を資料で調べてわかったこと」という欄を設けています。これは、講義動画を、ただ受動的に視聴するだけではなく、生徒が能動的に探究活動をして、学問や大学、学部学科への理解を深めるための「仕掛け」です。

小山…今の生徒は希望が多様化しているので、生徒の興味や志向を知る材料となる「受講課題レポート」は、一人ひとりマンツーマンの指導をしていく際にと



ても有効です。生徒との面談でも、「どうしてこの講義を選んだの?」という問いかけをして生徒の思いを引き出すために活用しています。また1年生から2年生になる春休みの「受講課題レポート」は、2年生の新しい担任に提出されるので、新しい担任がその生徒のことを知る資料にもなります。

課題の回数を重ねることで、選んでいる講義の傾向が変わってくる生徒もいます。1年生では漠然と興味があるものを選んでいますが、2年生になると学部学科研究も並行して深まってい

ているので、志望する、本当に受験したいと考えている学問系統でどの大学の学部学科がいいかという観点での選択をしていくようになります。提出された「受講課題レポート」は、一人ひとりの進路ファイルに閉じ込め形で保管していきます。

吉村…自分のやりたいことにこだわりを持って、その先の社会に出た時にどういう形で貢献していくかというようなところまで「自分像」を描いている生徒が増えてきたという実感があります。

生徒が「自分の生き方を考える」
ことにつながっていく

小山…進路指導をする中で自分自身としっかり向き合わせていきたいという思いを強く持っていました。この講義動画の視聴によって、孤独な作業をして、内省することが生徒の「自立」につながっていくと考えました。講義動画の視聴は、本来は自分の学びたい学問を見つけてようというところから始めた取り組みだったのですが、実際にやってみると、とりもなおさず「自分の生き方を考える」という効果が大きかったようです。学部学科研究の「環だ」と思っていたことが、結果的には実りが大きかったのです。

講義動画の視聴の取り組みをするのと、「生徒が大人に」なります。保護者の方が大学受験をされた当時と今では大

学の学部学科名なども違ってきます。文系というと、保護者の方は「文学部、法学部、経済学部」という選択肢だと思われているようですが、総合政策学部のような学部名では内容がよくわかりません。実際にこういう講義内容が学べるということを生徒と保護者の方が一緒に見たというケースもあります。そうすることで家庭での進路に関する会話がより活発になって、生徒が精神的に成長します。大学だけではない自分の生き方、「こういう生き方をしたいんだ」ということを保護者に伝えるためのプレゼンをするために講義動画を使った生徒もいました。そして、進路が決まってから取り組む姿勢に真剣さが増し、成績もグンと伸びました。志望が明確になるとあとは迷いなく勉強するだけなので、それまでの自分の殻や限界を力強く突き抜けていくのです。

海野…「資格があるから、その職業に就く」というのではなく、自分を生かしてこそ「仕事が楽しい」と思えるはず。生徒には、自分をよく知って、どういうことをしたら自分が輝いていけるのかを考えてほしいのです。ぜひ自分が生かせる場所を、自分の力で見出してほしいと私たちは願っています。

